

中部から「秋田」に熱視線

自動車関連企業相次ぎ進出



県機関と共同で新たな焼き入れ技術の開発に取り組む（大橋鉄工）

中部の自動車関連企業が秋田県に熱い視線を送っている。BCP（事業継続計画）対策や人材確保を狙い、有力サプライヤーの大橋鉄工（本社北宮市、大橋雅彦社長、シエテクトが相次いで進出。大橋鉄工は秋田で新たな熱処理技術の確立に向けて県機関と共同研究に乗り出し、6月には国の「戦略的基礎技術高度化支援事業（サポイ事業）」に採択された。この3日にはイタ産業（同稲沢市、飯田耕介社長）も進出を表明。秋田と中部の結び付きが一段と強まっている。（岩崎幸一）

大橋鉄工

共同開発に着手

イタ産業

新規立地へ

手厚いサポーター呼び水

大橋鉄工は2015年11月に橋手第二工業団地（横波焼き入れを行っていた）に「大橋鉄工秋田」を設立し、17年2月からオートマチックトランスミッション（AT）部品のパーキンクワッドを量産している。愛知県外への進出はBCP対策が狙いだが、進出前の昨年1月から県産業技術センターと共同で、高周波焼き入れに比べて熱変形が少なく、焼入れに比べて熱処理の技術置換、部分焼き入れの技術の導入を進めている。サポイン事業では秋田大学、東北大学もアドバイザーに加わり、年内にレーザー焼き入れ機を導入して量産技術の確立を急ぐ。大橋社長は「中小企業が大学と連携するのは難しく、秋田

大橋鉄工は2015年11月に橋手第二工業団地（横波焼き入れを行っていた）に「大橋鉄工秋田」を設立し、17年2月からオートマチックトランスミッション（AT）部品のパーキンクワッドを量産している。愛知県外への進出はBCP対策が狙いだが、進出前の昨年1月から県産業技術センターと共同で、高周波焼き入れに比べて熱変形が少なく、焼入れに比べて熱処理の技術置換、部分焼き入れの技術の導入を進めている。サポイン事業では秋田大学、東北大学もアドバイザーに加わり、年内にレーザー焼き入れ機を導入して量産技術の確立を急ぐ。大橋社長は「中小企業が大学と連携するのは難しく、秋田

秋田株 株式 結締



3日にはイタ産業が工場進出を表明した（右から佐竹知事、飯田社長、高橋大橋手市長）

秋田市には17年にシエテクトが「IT開発センター秋田」を開発。自動運転を担う電子制御機器のソフトウェア開発を始めた。県が推進する独自のUターン支援制度「Aターンの活用して首都圏でキャリアを積んだエンジニアを多く採用。現状35人の人員を当面50人体制まで引き上げることを目指している。3日にはイタ産業が大橋鉄工と同じ工業団地に進出を表明した。自動車用防音材の増産対応が目的。新会社「オロテックス秋田」を近く設立し、約4億円を投じて敷地面積約9千平方

もともと、直近5月の秋田県の有効求人倍率は1.50倍と愛知県の1.97倍に比べれば低い。採用活動は楽でない」と周辺筋。県は首都圏以外でもAターンの希望者を広く募集しており、今年15日には名古屋市内で2回目となる就職面接会「Aターニア」(25社参加)を開く予定。東北での完成車生産の拡大で企業集積が進む一方、良質な人材の確保、地元での育成が急務となっている。

進出がなければ今回の話はなかったと手厚いサポーターに感謝し、新たな土地で技術進化を遂げる構えだ。は5人で、将来的には20人まで増やす。調印式に臨んだ佐竹敏久知事は「輸送ルートの確保や雪の対策など、県と市が一緒になって取り組む」と万全の支援を約束した。